

## あくていぶ21 野間 芳実 議員



### 1 新市長の公約について問う

**質問1(1)** 末松市長は、小中学校給食を無償化すると訴えていたが、無償化に向けての今後のスケジュールは。

**答弁1(1)** 中学校給食の実施(平成27年4月実施予定)後に、無償化については検討を始めたい。

**質問1(2)** 市長は、議会改革の必要性を考えているとの事だが、鈴鹿市議会のどこに問題点があるのか。

**答弁1(2)** 「議会改革特別委員会」を設置され、活発な議論をして頂いていると伺っている。成果も着実にあげて頂いており、評価している。

**質問1(3)** 鈴鹿市庁舎15階にレストランを作るとのこと

だが、実現に向けての見通しは。

**答弁1(3)** レストラン的な構想は断念し、地産地消の推進に向けての情報発信基地として考えていきたい。

**質問1(4)** 地区市民センターを中心とした高齢者福祉・子育て支援サービスの拠点作りとは。

**答弁1(4)** 公民館を利用して、介護予防教室を開催したり、公民館を中心とした「出前保育」を行っている。

**質問1(5)** 災害に強い街作りについて。

**答弁1(5)** 個人、地域、公共それぞれが、平素から災害への備えをする事が、災害に強い街と考える。

**質問1(6)** NTT西日本研修センタ跡地でのスポーツ施設の整備について。

**答弁1(6)** 具体的なスポーツ施設の整備は、全市的なスポーツ施設の整備方針のなかで検討したい。

## あくていぶ21 伊藤 健司 議員



### 1 鈴鹿市職員提案制度について

- (1) 導入目的や内容、提案実績は
- (2) 課題、改善点について

### 2 固定資産税の過誤納について

**質問1(1)** 制度の導入経緯、趣旨、提案状況は。

**答弁1(1)** 平成13年度に職員の創意工夫、意欲の高揚を図るとともに行政運営の効率化と市民サービスの向上を目的とし、個人またはグループでの提案ができる。提案実績は13年後から今までで26件。

**質問1(2)** 提案件数の少なさ、課題、改善点は。

**答弁1(2)** 職員に十分理解されていない状況にあり、行政改革の観点からも制度の改善を図る。優秀な提案は表彰することにより積極的な職員提案や制度周

知につなげていく。今後は幹部職員の意識や組織の自立機能をこれまで以上に働かせることに努める。

**質問2** 固定資産税の過誤納案件数、発生原因、還付の遡及について、適正に処理されているのか。

**答弁2** 還付件数は平成18年度から22年度の5年間で168件。原因は家屋の滅失、所有者名義変更の遡及処理等。過去5年の納付分まで遡って還付。5年を超える期間も、市の明らかな瑕疵の場合は過去6年目以降10年目までの過誤納金を還付、税務関係公簿の保存年限外の11年以上の場合も市の瑕疵及び納付額等の事実関係が確認できれば20年を経過するまでの分を還付している。家屋の滅失届など所有者の申告が必要な場合もあるので、課税明細書による課税内容の確認など納税者の協力を今後さらにお願したい。

## 無所属 中村 浩 議員



### 1 防災行政無線について

**質問1(1)** 災害時における市民への情報伝達手段と伝達までの所要時間は。今後、市民への周知をどのようにしていくのか。同報系防災行政無線が必要と考えるが、市長の見解は。市内の堤防高が統一されていないのは何故か。

**答弁1(1)** 情報伝達手段として、広報車・市ホームページ・メルモニ・ケーブルテレビ・コミュニティFMを活用している。所要時間は災害状況により異なるが、迅速な対応に努めている。同報系の無線については、鈴鹿

市防災計画の見直しも含め、これまでの整備計画をあらゆる視点から再検討したい。堤防の設計高は、前浜の高さやその浜の地形や形状などの海底勾配により計算されることから、場所によって違う。今後も堤防の高さは県と協議を行う。

**質問1(2)** LED電球の設置に対する補助の実施について、どう考えるか。

**答弁1(2)** LED照明は白熱電球に比べて耐久性があり、省エネ効果も高いがコストが高いため、普及を進めていく上での課題となっている。補助制度の導入については、本市を取り巻く社会経済情勢や国、県や他の自治体での補助の実施状況などを踏まえ、検討していきたい。